

大阪女学院高等学校 北校舎



外観

多くの伝道施設を建築したW.M.ヴォーリズの設計で、昔の洋館の趣を残す歴史ある北校舎。



3Fトイレ 全体

改修による限られたスペースの中で器具数を確保するため、ブース扉は折れ戸を採用して通路幅を維持した。手洗いコーナーは、コンパクトな壁掛ハイバック洗面器を設置している。



3Fトイレ 大便器ブース

大便器はパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用、擬音装置「音姫」付きのウォシュレットPSを設置した。荷物配慮として、小物が置けるスベア付き紙巻器と便器後方に棚を設けている。

トイレ図面

4Fトイレは、スペースはそのままに、混雑緩和のため全体が見渡せるようにレイアウトを変更している。



4Fトイレ 全体

器具数は変えずにレイアウトを工夫して、ひと目で全体が見渡せ、大便器の空き状況がわかるように変更。ナチュラルな木目調とアクセントとなるピンク色のブース扉が、優しく温かみのある空間を演出している。



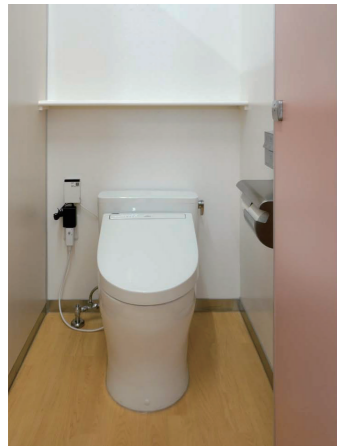
4Fトイレ 洗面コーナー

大きな窓から光が入る明るい洗面コーナー。窓の下には棚が設けられ、荷物を置くことができる。鏡は顔映りがよいLED照明付鏡を採用。生徒からも「お気に入り」との声が届いている。



4Fトイレ 洗面コーナー

洗面器は、カウンターに半埋め込みすることで高さを抑えた、ハーフベッセル式を採用。水栓金具は、衛生面と節水性に配慮した自動水栓を設置している。



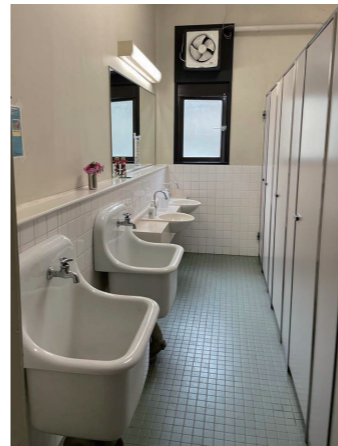
4Fトイレ 大便器ブース

大便器は、連続洗浄可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。全洋式化はもちろんのこと、すべての大便器に擬音装置「音姫」付きのウォシュレットPSを採用している。



4Fトイレ 入口

入口には、身繕いをチェックできる全身鏡を設置。余裕を持たせたスペースは、身だしなみチェックなどに訪れる生徒の交流の場にもなっている。



改修前



改修前は、適切な維持管理はなされていたが、和式便器が中心のトイレで、湿式清掃により冷たい印象だった。

水まわりの特長

改修の経緯

1884(明治17)年にミッションスクールとして創立した「大阪女学院」は、大阪府中央区の市街地に立地する緑豊かなキャンパスで、中学校・高等学校・短期大学・大学・大学院を擁している。そのキャンパス内で高等学校のホームルームなどを備える北校舎は、日本で数多くの伝道施設を手掛けたアメリカの建築家W.M.ヴォーリズが設計し、昔の洋館の趣を残す歴史ある建築物。トイレも適切な維持保全はされていたが、冬場は少し冷えやすい上に、便器は和式便器が中心で、湿式清掃だったために暗く冷たい印象となっていた。今回の改修は、生徒の快適性を念頭に置いた高機能化と防災機能強化の両立を目的として、全洋式化や非接触配慮器具の設置、乾式清掃への変更に向けた改修を実施した。

トイレの特長

内装は、ナチュラルな木目調とアクセントとなるピンク色のブース扉が、女子高らしく優しく温かみのある空間を演出。また、生徒が通学途中で利用する駅や公共施設のトイレが洋式化されウォシュレットの設置がすすんでいることから、大便器はパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用し、すべての大便器に擬音装置「音姫」付きのウォシュレットPSを設置している。4Fトイレは、和式便器が中心で、入口から全体が見渡しにくく空き状況がわかりにくかったことから、全体を見渡せるレイアウトに変更された。改修後の生徒へのアンケートでは「洋式になって清潔感があるのでよかった」「トイレが明るく綺麗になった」など多くの喜びの声が届いている。

建築概要

名称	大阪女学院高等学校 北校舎
所在地	大阪府中央区玉造2-26-54
施主	学校法人大阪女学院
施工	建築 南灯建設 設備 ツカサ住設
竣工年月	(改修)2022年7月
敷地面積	34.410㎡
建築面積	1.163㎡
延床面積	4.928㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上5階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BC
ウォシュレットPS (擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534AU
スベア付紙巻器:YH150 R/L S/マーブライトカウンター:MB40
壁掛ハイバック洗面器:LS125系/洗面器:LS721C
LED照明付鏡(化粧照明タイプ):EL80016